

## 「入学準備金」の入学前支給と 準備金増額を！市教委に申し入れ



市議団は5月9日、西宮市教育委員会に就学援助の「入学準備金」を、入学前の3月支給（現在、入学後の7月支給）と実態に見合う額に引き上げを求め申し入れを行いました。

### 新小学1年生も3月支給を

この間、日本共産党国会議員団の奮闘があり、これまで「児童又は生徒」としてきた入学準備金の交付対象に保育所や幼稚園卒園児の「就学予定者」が追加されました。3月議会では新しく中学に入学する子どもたちに対し①来年3月に支給する ②必要な補正予算を組む等の答弁を得ましたが、幼稚園や保育所から小学校に入学する子どもたちにも適用せよと、今回改めて求めました。

### 実態に見合った入学準備金に増額を

また文科省の「通知」で、入学準備金の単価も小学生一人4万600円、中学生は4万7400円と倍額に。しかし、

西宮は旧単価のままであり、改定を求めました。

### 「庁内で整理し検討する」と回答

申し入れには重松教育長、加藤次長、山本次長他が対応。「3月支給するにはその前の12月議会で補正予算の計上が必要だが、来年4月に入学する新小学1年生への入学前3月支給は、人数の確定が難しく困難」としました。しかし市議団の重ねての要請に「様々な要件があるが、庁内で整理し検討する」と答えがありました。

### 今年もメーデーに参加しました！



「共謀罪は廃案」「長時間労働をなくせ！」「憲法9条守れ！」などのプラカードが目立った西宮市役所前公園での統一メーデー西宮集会。西宮市議団全員といそみ県議が参加し連帯の挨拶を行いました。

## NPO法人の脱税問題に関わるS西宮市議の疑惑について

日本共産党市議団は5月2日、表記の件で「西宮市議会の品位にかかわる問題」として議長に対し事実解明を求め、申し入れを行いました。

事の発端は、3月31日から4月1日にかけての新聞報道。市内のNPO法人「西宮障害者雇用支援センター協会」が、大阪国税局の調査で源泉所得税の徴収漏れを指摘され、重加算税を含め約2億8千万円を追徴課税されたこと。また協会は雇用する障害者らの報酬として約5億円を2016年までの6年間で計上していましたが、実際には理事長の父親にわたり、私的流用されていたとの報道です。

市はこれまで「障害者の雇用を積極的に確保する」との国の方針を踏まえ、協会系列3団体に9年間に総額26億円以上の業務を「随意契約」で発注しており、市の契約のあり方等も厳しく問われています。

### 「週刊新潮(4月27日号)」で、 協会からS市議に1億6000万 円渡る・・・？

発売された「週刊新潮」によると、協会理事長が「父親が5億円を流用したわけではない」「たかってくる連中に渡さざるを得なかった」と、西宮市議のS氏らに金銭を要求されたとしています。

9日に開催された議会運営委員会でS市議は「一切ない」と否定しましたが、その根拠はまったく示されませんでした。

市議団は、市の契約のあり方とともに、S市議の疑惑解明を進めていきます。

